

## 真南条下農業生産組合の取組み

### まえがき

真南条下農業生産組合（以下、生産組合）では、担い手がなく、将来が見通せないことを理由に危機意感を持っていても、何とかなるとの思いで一年、一年が過ぎていきます。PDCA【Plan（計画） Do（実施） Check（評価） Action（改善）】サイクルがスパイラル状に上手く上昇しないのは何故なのか、我々の弱味、強味を整理しながら触れてみます。

### 先人から引き継がれた共同意識

- 1 60年程前は、手作業による田植や葉たばこの乾燥などを共同で行っていた。そして40年程前から転作奨励金を各農家の金額の多少に関係なく集落の基金とし、農業機械を購入し機械の共同利用が始まった。（今後共、共同作業は、先人の思いと捉えて取り組んで行く）
- 2 中山間地域等直接支払制度及び多面的機能支払交付金について集落の共同基金であるとの認識のもと、どの農地も自分が利用することを基本に湧水等、使用条件の悪い農用施設の改良・改善、および農業機械の導入を行って来た。（屋敷の周辺を除き、農地は、集落で守って行く機運が出て来た）

### 集落の特徴

- 1 集落内農家には、①農業機械の全てを揃えている農家 ②主要な農作業を生産組合に委託している農家 ③農地を保有しているが、殆ど個人や生産組合に耕作委託している農家 ④家庭菜園程度の農家 ⑤非農家 に区分され、幸い①、②の中には野菜や特産物を栽培している数戸の篤農家がいる。（それぞれの立場の思いを汲んで進める必要がある）
- 2 自治会との関係について、役員を選任等については自治会の協力・支援無くして推進出来ない。生産組合は、自治会の傘下組織との思いで取り組んでいる。生産組合の共同作業は勿論、すけたろう農業祭（農産品品評会、農業研修会、昼食会）すけたろう農園でのさつま芋、ひまわり等の共同栽培、直売所の運営等自治会との連携による行事として進めている。

### 真南条下生産組合の概要

- 1 生産組合の基本方針は、自治会が長年掲げて来た「自治会基本理念：活力ある地域づくり住みよい環境づくり」と何時もリンクさせ事業計画に反映している。
- 2 農業機械の共同利用は40年程前から行っているが、3年前から31戸の

農家が計画的に高性能農業機械を導入し、約21haの水田で水稲+黒大豆の生産体制を確立した。

- 3 遠隔の大規模農家や個人に預けている農地の受託を行い、受託面積の増加に対応している。

#### 今後の進め方

P D C Aサイクルがスパイラル状に少しでも上昇するよう、今の取組みが最後のチャンスと捉え、集落みんなで仲良く取り組んで行きたい。

- 1 認定農家や「人・農地プラン」樹立により、地域で担い手の支援を通して組合員それぞれの適正な労力に応じた役割分担。(今年度に目処付したい)
- 2 減反政策の廃止や農政の変革等を見据え地域で守る生産組合づくり。(水稲を基本に、地域特産物の栽培、農業生産技術の向上)
- 3 生産組合の永続のため、受託農地の収益性を考慮し、地権者へきめ細かい説明による管理費等負担のお願い。
- 4 高畦畔の草刈りの負担増への対応。(負担軽減の検討)
- 5 法人化について短期間で立上げられるよう事前準備の実施。

#### <参考>

H P城南の風／資料書庫／地域活動グループ

真南条下農業生産組合リーダー研修会 (H23. 2. 26発表)





